

伊良部町

移動博物館

沖縄県立博物館では、博物館の利用に不便を感じる地域の方々に、博物館活動の一端にふれていただくため昭和54年度から「移動博物館」を実施してまいりました。平成5年度は第17回日にあたり、伊良部町のB&G財団伊良部海洋センター体育館において、平成5年11月20日(土)・21日(日)の2日間開催いたしました。展示内容は考古、歴史、自然史、美術工芸、民俗の5分野からなり、総展示数は350点に上りました。また、文化講座を「伊良部の自然」という演題で、池原貞雄先生(琉球大学名誉教授)を講師に迎え開催し、その他にも「バードウォッチング」を高原建二(沖縄県立博物館指導主事)の指導で、地元の小学生を対象に実施いたしました。

開会式では、伊良部小学校と佐良浜小学校の6

年生が全員参加し、児童代表挨拶の中で伊良部小学校6年生の手登根光彦君は「伊良部町には博物館がなく沖縄の歴史や自然について調べようと思っても、調べることが出来ませんでした。今度、伊良部町でマンモスや恐竜の化石が展示されることを知り、早く見たくてワクワクしてやってきました」と話し、また、佐良浜小学校6年生の下地里佳さんは「社会科の授業で、沖縄の歴史について学習しましたが、これまで実際に芭蕉布で作られた着物や、マンモス、ヤンバルクイナなどを見ることが出来ませんでした。この2日間でたくさんの知識を得たいと思います」と移動博物館への期待を述べました。

今回の移動博物館では、期間中1,822人の入場者があり、盛況のうちに閉会いたしました。

企画展

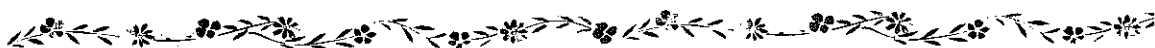
『刻まれた歴史』開催される。

……沖縄の石碑と拓本展……

平成5年10月5日(火)～10月24日(日)

企画展開催の期間中7,000余の来館者があり賑わいました。石碑は現物を10点、拓本は沖縄本島から先島、さらには那覇市教育委員会の協力を得て、県外の琉球関係碑文6点を含む約50点を展示しました。展示は古琉球期の石碑、河川・橋梁にたつ石碑、県外の琉球関係石碑、墓碑、湧泉・池にたつ石碑、石碑文様の変遷、採拓方法などわかりやすく分けたため好評でした。なんといっても、観

覧者の目を引いたのは「中山第一」で他を圧倒していました。また、関連催し物として、拓本教室（講師：崎間麗進、阿波根直孝、運天美和子の各氏）と拓本の表具教室（講師：当間博氏）を開催しました。定員もすぐにいっぱいになり、見学がほぼ同数という盛況ぶりで、参加者は実際に拓本をとったり、裏打ち出来たことで大満足の様子でした。



3月4日『サンシンの日』

……銀サンシンの音色は……

平成6年3月4日(金)に県立郷土劇場においてラジオ番組「サンシンの日」が行われ、番組の中で当博物館所有の『銀サンシン』が披露され、その音色が電波を通して各地に響きました。

このサンシンは、那覇市在住の仲井間宏氏から今年の1月に、多くの県民に見ていただきたいと言うことで寄贈されたもので、大変貴重な資料です。

この銀のサンシンは、平成5年度の「新収蔵品展」において展示される予定です。



企画展示室

琉球王朝時代の楽器
『三味線と御座楽』

平成5年10月25日(月)～平成6年2月20日(日)
沖縄の芸能文化を支えてきたものに楽器があります。その楽器のなかでも三味線は、一般庶民に普及し、親しまれた楽器であり、沖縄の心とも言えます。

企画展示室では、当博物館に所蔵されている三

味線を中心に、三味線の製作工程を製作道具や写真パネルで説明し、知念績高・湛水流などの「工四」を展示しました。さらに、御座楽で使われた貴重な楽器や琉球人座楽并踊りの図・江戸上り行列図などの資料も公開しました。

《今 ボランティアは輝いて》

1993年9月3日って、何の日だか知ってる？
「えーっと、何の日だったっけ…」聞かれても分からないのが当然、でもこれからは覚えてね、“それ”“は”博物館ボランティア会の誕生日
このときから7か月たちましたが、今ボランティアは輝いています。この輝きの秘密は、解説勉強会で栄養をとり、さらに解説や体験教室・文化講座の実践で足腰を鍛えてきたことにあります。

これまでの解説勉強会の足跡をたどると…

「マクドナルドの箱を作った質問づくり

—アメリカの博物館での実践例」

「首里那覇港図の屏風の質問づくり

—観察に目をむけさせる方法」

「竿ばかりの使い方—使って気付くあらたな質問」

「竿ばかりの操作をとおしての質問づくり

—あらたな発見へ」

「南風原文化センターの視察

—ユニークな展示の秘密をさぐる」

「世界の機織りから沖縄の機織りをみる」

「機織りの操作をとおして展示室の織りの質問をつくる」

「漂着物を知念の海にさぐる」

ボランティアの活動の中で、いろんな提案や抱負もでてきて、意欲的になってきました。

・小学生の体験学習に必要な民具の調達

(大嵩シズさんは八重山で見つけてきました)

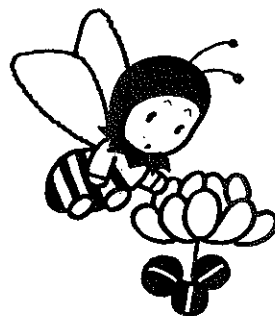
- ・体験学習に必要な学芸資料の製作
(ガンシナなど)
- ・博物館視察の計画(名護博物館など)



これからも多くの方が、新年度のボランティア教育養成講座を受講し、ボランティアの活動に参加されることを期待します。

問合せ先：☎ (098) 884-2243

教育普及課 前川まで



平成5年度 子ども体験学習教室 (第3回・第4回講座) 終える!

第3回講座

「遊びの道具づくり」

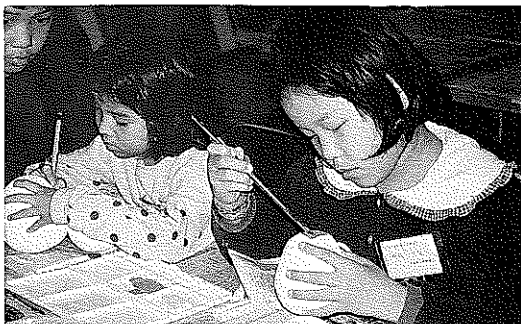
講師：外原 淳 (沖縄玩具伝承友の会)

10月9日(土)・11月13日(土)・12月11日(土)

子ども体験教室の第3回講座は、「はりこづくり」です。那覇市三原に住む仲田さんの兄弟は、俊亮君、俊彦君、りなさん、りかさんの4人が参加しました。

はりこの形をつくるために、粘土で形をつくったり、石膏をながしたり、紙をはったり、いづれも初めての体験でした。でも形ができあがると、あとは色ぬりだけで楽しみがふえてきました。

りなさんのつくった「だるま」は、自分の顔に似たやさしい顔の作品ができあがりました。お兄さんの俊亮君の「だるま」は、元気な楽しい作品に仕上がりました。



第4回講座

「史跡をたずねて」

～琉球王国へタイムスリップ～

講師：金城 明美 (平敷屋小学校教諭)

平良 信明 (鏡原中学校教諭)

新城 俊昭 (大平高等学校教諭)

1月8日(土)・2月12日(土)・3月12日(土)

第4回講座は、史跡の話、史跡めぐり、首里城周辺オリエンテーリングの3つを行いました。

3月12日の首里城周辺オリエンテーリングでは、6グループに分かれて、博物館構内、龍潭、円覚寺周辺、首里城周辺、首里杜館、天界寺の井戸のポイントを、与えられた問題にしたがって解きながら進んで行きました。

その中でも、なかなか探せなかったのが、世持橋。なぜなら、ふだん通っている歩道の下にあり、横から見ないとなかなか気づかないからです。講師の新城先生から、どうしてアーチ型の橋が造られたのか、説明があり、そのあとでぶくぶく茶を飲んで終わりました。



沖縄県博物館協会 (奄美研修)

平成5年度秋期研修会が5年10月14日(木)～15日(金)の日程で奄美大島笠利町中央公民館を中心に行われました。

初日は昼食後、笠利町教育委員の大野隼雄先生が「奄美の自然」、本館の眞岡一教育普及課長が「奄美のグスク」でそれぞれ講演され、それぞれ奄美と沖縄の類似点・相違点が興味深い内容でし

た。

夜は懇親会が行われ、町長・教育長を始めとし、多数の参加があり、トゥバラーマや六調も飛び出し楽しい一時でした。

翌日は奄美の自然・文化財めぐりを大野隼雄氏・中山清美氏(笠利町歴史民俗資料館)の案内で行い、名残りを惜しみながら奄美を後にしました。

平成5年度博物館文化講座(下半期)の報告

第230回 『拓本のとり方』

日時：10月16日(土) 午後2時～5時

講師：崎間 麗進（沖縄県文化財修理技術者協会副会長）

阿波根直孝（沖縄県文化財修理技術者協会会員）

運天美和子（沖縄県文化財修理技術者協会会員）

内容：当博物館の所有する石碑を使い、拓本のとり方の実演と実技指導がおこなわれた。

『拓本表具方法』

日時：10月23日(土) 午後2時～5時

講師：当間 博（表具師）

内容：『拓本のとり方』教室で採拓したものを、使い、表具する過程の実技指導がおこなわれた。



第231回 『琉球王朝絵画と中国絵画』

日時：11月20日(土) 午後2時半～4時半

講師：神山 泰治（琉球大学教授）

内容：文部省在外研究員として中国に滞在された神山泰治先生が、中国留学の体験談を加味しながら、中国画と琉球画についての説明がおこなわれた。

第232回 『野鳥に親しむ』

日時：12月18日(土) 午後2時半～4時半

講師：高原 建二（県立博物館指導主事）

久貝 勝盛（県立博物館指導主事）

内容：野鳥観察のための基礎的な知識と双眼鏡の使い方の説明がおこなわれ、野鳥観察をしながら、自然に親しむ方法を学んだ。



第233回 『寄りものの話』

日時：1月22日(土) 午後2時半～4時半

講師：當眞 嗣一（県立博物館教育普及課長）

内容：実際に海岸に流れ着いた「寄りもの」を展示し、漂着物をみながら文化の交流や文物の移動について説明がおこなわれた。



第234回 『ホームビデオ製作』

日時：2月19日(土) 午後2時半～4時半

講師：西村 治良（NHK沖縄放送局ディレクター）

内容：ビデオを持参し、撮影の基礎知識を学習したあと、各々撮影をおこない、作品の批評会がおこなわれ、楽しく進められた。

第235回 『歴史の道を歩く』

日時：3月19日(土) 午後2時～5時

講師：萩尾 俊章（県立博物館学芸員）

内容：コース日程の説明の後、雨模様の天気の中を出発し、弁ヶ嶽参詣道の歴史の道をたどりながら歴史の追体験をおこなった。

博物館クイズ

博物館には、子供から大人まで多くの方が訪れます。そして来館者の中には展示物を見て、いろいろな質問を案内コーナーにもちかけて来ます。その多くの質問の中からいくつか取り上げてみました。

さぁ～貴方は当博物館の解説員です。何問答えてあげることが出来るでしょうか？挑戦してみましょう。

歴史シリーズ

(小さな子供が首里城の模型を見て)

- ①昔の首里城ってこんなに小さかったの？
- ②首里城の色は本当は赤でなかったの？
- ③このお家には誰が住んでいたの？
小さい人が住んでいたの？
- ④首里城のトイレは何処にあったの？
- ⑤龍柱はどっちが雄でどっちが雌なの？

自然シリーズ

(小さな子供が展示物を見て)

- ①ここに展示されているものは本物なの、
それとも模造なの？
 - ②どのようにして剝製やレプリカをつくるの？
- (観光客からの質問)
- ③デイゴの木とはどんな木？

美術工芸シリーズ

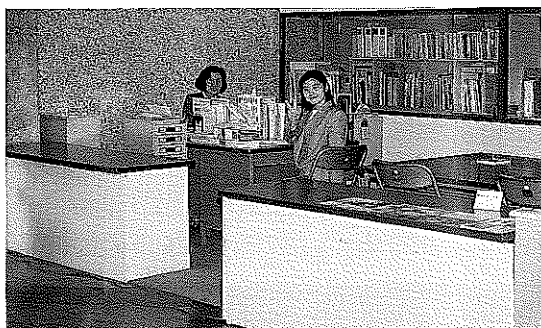
- ①紅型などの長い名前はどのようにして決める
のですか？(たとえば木綿染分地山波菊菖蒲
とか)
- ②陶器の「からから」はなぜそういう名前なの
ですか？

その他

- ①円覚寺の鐘は鳴らさないの？
- ②中城御殿には誰が住んでいたの？
- ③ここはなんの部屋なの？(案内コーナーにて)

民俗シリーズ

- ①厨子甕の中には何人の人間が入るの？
- ②シーサーはどっちが雄でどっちが雌なの？
- ③サンシンの名前はどやっつけてたの？
(たとえば南風原型とか与那型とか…)
- ④沖縄はなぜ赤い瓦を屋根にのせるのか？



子どもたちの質問には、答えがひとつのものから、幾つも答えがあるもの、そして趣旨のつかみにくいもの(民俗④)までいろいろあります。これらの感性(創造)豊かな質問に、子どもたちが、なっとくするまで説明してあげることが、解説員の器量であります。

さぁ～再度 挑戦してみましょう！

<p>博物館案内図</p>	<p>【交通案内】</p> <p>—那覇空港発— ⑦番(首里城公園行き)「首里高校前」バス停 下車、徒歩5分</p> <p>—市内バス— ①番(首里識名線) ⑨番(末吉線) ⑬番(牧志線) ⑭番(石嶺開南線) 上記の路線は「首里城公園入口」または「当歳」バス停下車、徒歩2分。</p> <p>—市外バス— ⑩番(西原線)の「首里城公園入口」または「当歳」バス停下車、徒歩2分。 ⑳番(石川線)、㉑番(境大線)の「桃源」バス停下車、徒歩5分。</p>	<p>沖縄県立博物館だより No.35</p> <p>発行年月日：平成6年3月31日 編集・発行：沖縄県立博物館 住 所：〒903 那覇市首里大町1-1 ☎098-884-2243 FAX 098-886-4353</p>
---------------	--	---